

新しい職場の上司に誘われ初日からセックス
近くのビジネスホテルで二人の人間の夜の営みで
跳ねるベッド



電車を降り、240円の乗車切符を駅員に渡す。駅を出ると、少し小走りでタツヤは新しい職場へ向かった。以前別の目的で通ったことのある道。

自宅の街に隣接するとなり街の飲食店だ。

新しい仕事先。社員として3年やったガス会社を辞めたのは、趣味でやっていた寺院めぐりのブログが仕事として成立する収益を出しはじめたからだ。旅行比較サイトなどにもメインで紹介されPVを集めている。

しかしその収益だけでは心許ない、ということで飲食店のバイトとかけもちをすることにしたのだ。飲食店は学生時代などにもそれなりに経験があることもあって仕事場所に決めた。

タツヤが店に入ると・・・。

「おはようございます！！」

初日から少し引いてしまうくらいハイテンションで迎えてくれたのは28歳のタツヤの5歳くらい年上の女性。キッチンではリーダーになっているパート歴の長い女性だ。後々世間話で、既婚で子持ちであることも分かった。

ミニスカートを穿いているのは臨機応変に場合に応じてホールの配膳もやっているから。店全般を任されている。既に10年近い経歴をこの店で持っている。ムッチムチの太ももがパンパンに弾けそう。さらっさらの肌色が己を主張して足を前へ進めるたびブルンブルンしている。少ししゃ

がむと白いパンツが少し見えた。こんもり二つ山のお尻がぶりんと己を主張。さらに台を使って少し高いところにある食材の粉を取ろうと片足を上げると、股の方まで肌色の足が見えた。太ももは比較的華奢なその体系の割に太く、むっちりむちのお尻とスムーズに繋がっている。

仕事の流れを教えてもらう時に彼女が言ったのは、タツヤの以前の職場の会社がチェーン展開している店と現在掛け持ちをしているということ。毎日仕事でとにかく忙しく、娘を良い音楽の私立大学に入学させるために頑張っているのだという。うなじともみあげ部分にかいた汗を拭う彼女。セックスにはかなり飢えていそうである。

名前をユミコと言う。

ユミコは息をついて言った。

「峯田くんの以前のそのガス会社のチェーン店の店と違って、ここは本格派なのよ。ハッキリ言って顧客第一優先のこのの方が厳しいのが実情よ。

あっちはとっても緩いもん」

「あ、そうなんですか。。確かに、ガス会社も従業員優先のところがありましたからね」

タツヤはユミコのハイテンションぶりに、少し困惑したが同時に発情。

ブリンブリンして胸も揺れているので思わずお尻を鷲掴みにしてしま
った。

「厳しいならこうやってフラストレーションも解消しないと！！です
ね！！」彼女はキャッ！！と叫んだ。

「働くばかりじゃペニスは寂しすぎますっ」

「た、確かに・・・働くことは必要だけど。労働の後の女の喜びって
いうものにも飢えているかもしれないわ」

そういうと、両手で胸を寄せて見せた。

タツヤはそれを見入る。

すると、

「この股の部分は、仕事では使わないけれど・・・お尻は揺れてる
わね。あなたのでっかいペニス挿入して欲しいわよ、ほんとに」

そしてスカートをまくり上げ、白い下着を見せた。

他の従業員が気付きかける。

「あっ！！」

慌ててユミコはスカートを下ろし、タツヤにウィンクした。

「あとで・・・ねっっ！！！」

————— 体験版は以上になります。 —————